

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271100434		
法人名	社会福祉法人 かしま福祉会		
事業所名	グループホームあとむ苑		
所在地	島根県松江市鹿島町北講武885番地6 (電話) 0852-82-9711		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年8月11日	評価確定日	平成20年9月11日

【情報提供票より】(H 20 年 7 月 30日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.2 人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリー造り		
	1 階建ての	1 階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

## (4) 利用者の概要(7月30日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88.2 歳	最低 82 歳	最高 99 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松江市立病院 鹿島内科クリニック 鹿島歯科診療所
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の「地域の方に、住み慣れた所で老後を暮らしていただきたい」という思いからつくられたホームである。法人の他事業所の支援を受けて、医療体制・避難訓練など様々な面で連携、協力体制がとられている。「ゆっくり、ゆったり」の理念のもと、利用者は住み慣れた場所で穏やかに過ごし、地元のホームに移りいきいきとされた利用者もある。隣接した町の「子育て支援センター」や温泉施設を利用する方との交流もあり、地域からも期待が寄せられている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域や同業者間との交流、介護に活かすための記録様式など改善されている。運営推進会議は開催月を決め、議題も年間計画を立て計画的に取り組むようになった。地域へのホームの広報や災害時の協力体制は引き続き課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価のための会議を4、5回開き、全職員で話し合いながら作成した。評価後は、外部評価の内容に対する検討会を行い、「改善シート」で一つづつ改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 「グループホームとは」「地域密着型とは」という内容からあとむ苑を紹介し、参加者からの質問を受けたり、ホームに対する要望を聞いたりしている。会議で出された意見、要望を運営に反映している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時に意見を引き出そうとしているが、意見が少ない。「家族会」はなく、運営推進会議への家族の参加も少なく、意見を運営に反映するのが難しい状況である。定期的な連絡の際に家族の意見をもらえる方法を検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 「ホームだより」を市の施設や公民館などに配布している。小学校、保育所との交流、地元の行事への参加、日常的なつきあいなど地域との交流が進みつつある。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	パンフレット、リビングには「ゆっくり、ゆったり」との理念が掲げているが、玄関には更に細かい理念が掲げられており、統一されていない。又「地域密着型」としての表現が盛り込まれていない。	○	グループホーム独自の地域密着型としての統一した理念を掲げていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティング、月1回のカンファレンスで確認しているが、表現が統一されていないため、職員に浸透しにくい。	○	表現を統一し、理念を共有しながらのケアを行うよう努力していただきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「ホームだより」を地域に配布している。小学校、保育所との交流、地元の行事への参加、ボランティアの受け入れなど行っている。地元の「ふれあいの里」への買い出しの際や隣接した温泉に来られた地元の方と交流している。	○	案内版を設置し、地域の方にもホームがわかりやすいような表示を検討していただきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定例会議とは別に時間を取り、全職員で話し合い、管理者がまとめた。管理者・職員は外部評価を日々のケアを振り返る良い機会と捉えており、評価後は「改善シート」で検討を行い、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より会議の開催は偶数月と決め、議題も年間計画を立て取り組んでいる。メンバーからはホームに対する期待、要望などが出され、ホームからはホームの取り組みを地域に発信して欲しいとお願いしている。	○	家族の参加が少ないので、引き続き働きかけを行っていただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する「ブロック会」に参加し、研修を受けたりしている。日常的にも利用者が他のグループホームに移る時、又入居手続きの相談を行うなど、連携が図られている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書・領収書と共に、居室担当者が近況を報告している。定期的に発行される「ホームだより」を送り、写真を添える事もある。家族の面会時にも近況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時などに話を聞くようにしているが、面会が比較的少ない為、十分意見を聞けていない。運営推進会議への出席も限られており、家族会は作られていない。	○	家族等の意見・要望を引き出すような工夫と、家族同志の交流の場を作るなど積極的なホーム側の働きかけを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として、職員のスキルを向上させるという意向で、法人内のローテーションを行っている。職員は、ローテーションが行われる事で「新しい風が入る」と考えている。日々法人の事業所間で職員の交流が行われており、利用者の混乱はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で、職員一人ひとりの能力に応じてスキルアップを考えた研修計画が立てられている。職員が希望する外部研修も、可能な限りバックアップしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で知り合った同業者と「グループホーム部会」を作り、運営推進会議の内容などについて情報交換を行ったり、相互訪問も行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望された時点で事前訪問したり、入居希望者、家族にもホームを見学して頂いている。同じ法人のデイサービスやショートステイを利用していた方が多く、入居後混乱のあった方はいない。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方の以前からの呼び名で関わり、調理の仕方を教わったりしている。今までの人生で培ったと思われる蘊蓄のある言葉が聞けたり、職員が励まされたケースもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との何気ない会話を介護記録に残すようにしている。記録用紙をアセスメントに役立つと思われるものに変え、ケアプランに役立てている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に本人や家族から要望を聞き、地域のケアマネージャーからの情報なども参考にしながら職員全員でカンファレンスを行い、居室担当者と計画作成担当で計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月職員全員でのカンファレンスでモニタリングを行い、見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「自宅に帰りたい」という利用者に自宅に同行したりしている。専門医の受診が必要で家族が付き添えない時など支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族の意向を聞きながら主治医を決定している。定期的な往診があり、体調管理がされている。歯科医の往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人、家族から意向を聞いている。重度化した場合も本人・家族の思いを聞き、主治医の判断を仰ぎながら対応している。開設以来、2名ホームで看取った。	○	今後、事業所としての方針をまとめていきたいと考えており、その実現を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応の仕方で、リーダーや管理者が気付いた時には注意をしている。書類などは、情報開示規定に基づいて注意深く取り扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは決めてあるが、「のんびり、ゆったり」の理念のもと、利用者一人ひとりのペースに合わせるよう心掛け、希望に沿った外出支援など行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はホームで調理するよう改善され、昼・夕食は外部委託となっている。盛り付け・片付けなどは入居者の持つ力に合わせ、一緒に行っている。食事は「検食」として一人の職員が同席して摂り、見守りも行っている。	○	利用者と職員が同じ食事を一緒に楽しむ、という観点からの検討を望みたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は「週3回」となっている。今の所「毎日」「夜に」という希望はないが、希望があれば対応する姿勢がある。	○	入浴が楽しみなものとなるよう、入居者の希望を尊重しながら対応していただきたい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑、掃除、食事の準備・片付け、洗濯等、一人ひとりの力に合わせてやっていただいている。同じ敷地内の特老・デイサービスの知り合いの方々への面会、買い物など希望に沿って出来る限りの支援をしている。	○	生活歴をより深く知り、利用者一人ひとりがいきいきと過ごせるよう、更に努力していただきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の古墳の丘公園に散歩に行ったり、隣の温泉に買い物に出掛けている。月の行事予定を立て、法人の車で花見や牡丹見学など行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の思いを知る事でその人のペースを知るよう心掛け、日中は施錠をせず見守る姿勢をとっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練、通報訓練、避難訓練を2～3ヶ月に1回行っている。災害時は近くの職員宿舎や法人の職員の協力も得られる体制になっている。災害時の備蓄は法人で外注している。	○	避難・災害訓練を、地域の方々と共に取り組まれるよう期待したい。備蓄は法人として3日間の物が望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い食事内容である。魚が嫌いな方には代替食など対応可能である。必要に応じ、粥、きざみ食など手を加えている。水分摂取の少ない方はチェックし、記録に残し、対応している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・廊下など、スペースが広く取られ、ゆったりとした清潔感のある空間となっている。居間からはホーム周囲の自然が見渡せ、落ち着いた空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室・洋室があり、洋室でも希望にあわせて畳が敷かれている。持ち込みは比較的少ないが、くつろいだスペースになっている。窓にゴーヤのグリーンカーテンが植えられている部屋もある。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。